

# 指定演題 プログラム

会長講演

特別講演 1～4

教育講演 1～6

加藤正明賞授賞式・受賞講演

優秀論文賞授賞式・受賞講演

シンポジウム 1～8

**会長講演** 3月5日(木) 9:00~9:30 第1会場【中ホール(東)】

---

座長 水野 雅文 あさかホスピタル

**CL** 社会と奏でる精神医学 “Making harmony with civil society”

須田 史朗 自治医科大学・精神医学講座

**特別講演 1** 3月5日(木) 9:35~10:35 第1会場【中ホール(東)】

---

座長 藤井 千代 国立精神・神経医療研究センター

**SL1** 重複障害と断片化された支援構造の間見えにくいディスアビリティに気づくケア：22q11.2欠失症候群の本人・家族支援の経験から

笠井 清登 東京大学医学部附属病院精神神経科

**特別講演 2** 3月5日(木) 17:15~18:15 第1会場【中ホール(東)】

---

座長 須田 史朗 自治医科大学・精神医学講座

**SL2** 災害心理・脳研究から見たメンタルヘルスの3つの鍵

杉浦 元亮 東北大学加齢医学研究所／災害科学国際研究所

**特別講演 3** 3月6日(金) 11:10~12:10 第1会場【中ホール(東)】

---

座長 須田 史朗 自治医科大学・精神医学講座

**SL3** 老衰死は良い死であるのか

林 玲子 国立社会保障・人口問題研究所

**特別講演 4** 3月6日(金) 13:30~14:30 第1会場【中ホール(東)】

---

座長 須田 史朗 自治医科大学・精神医学講座

**SL4** 精神疾患を理解する7つのコンセプト：社会モデルと医学モデルの折り合いをどのようにつけるか？

村井 俊哉 京都大学大学院医学研究科精神医学

**教育講演 1** 3月5日(木) 10:40~11:40 第1会場【中ホール(東)】

座長 根本 隆洋 東邦大学医学部精神神経医学講座・社会実装精神医学講座

**EL1** うつ病診療ガイドラインは、社会にどのように寄与できるか

渡邊 衡一郎 杏林大学医学部精神神経科学教室

**教育講演 2** 3月5日(木) 16:05~17:05 第1会場【中ホール(東)】

座長 渡邊 衡一郎 杏林大学医学部精神神経科学教室

**EL2** デジタル技術はどの部分が臨床の役に立ち、今後どのように精神医学を変えていくのか

熊崎 博一 長崎大学医学部精神神経科学教室

**教育講演 3** 3月6日(金) 9:00~10:00 第1会場【中ホール(東)】

座長 市来 真彦 東京医科大学学生・職員健康サポートセンター

**EL3** 依存症と人類 ~精神作用物質の栄枯盛衰

松本 俊彦 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所薬物依存研究部

**教育講演 4** 3月6日(金) 10:05~11:05 第1会場【中ホール(東)】

座長 山口 創生 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所地域精神保健・法制度研究部

**EL4** 双極症当事者会を運用してきた経験について

鈴木 映二 東北医科薬科大学医学部精神科学教室

**教育講演 5** 3月6日(金) 14:35~15:35 第1会場【中ホール(東)】

座長 安藤 久美子 東京科学大学保健管理センター

**EL5** 社会と摂食障害

西園マーハ 文 明治学院大学心理学部

**教育講演 6** 3月6日(金) 15:40~16:40 第1会場【中ホール(東)】

座長 新村 秀人 大正大学臨床心理学部臨床心理学科

**EL6** 自殺対策とメディア報道 -報じるべきか報じざるべきか太刀川 弘和<sup>1,2)</sup>

1) 筑波大学医学医療系災害・地域精神医学

2) 茨城県立こころの医療センター

**加藤正明賞授賞式・受賞講演** 3月5日(木) 13:45~14:15 第1会場 【中ホール(東)】

座長 水野 雅文 東京都立松沢病院

**優秀論文賞授賞式・受賞講演** 3月5日(木) 14:15~15:00 第1会場 【中ホール(東)】

座長 藤井 千代 国立精神・神経医療研究センター

**シンポジウム 1** 3月5日(木) 9:40~11:40 第2会場【中ホール(西)】**社会病理と精神鑑定**

オーガナイザー 安藤 久美子 東京科学大学  
 河野 稔明 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所  
 地域精神保健・法制度研究部

**【企画趣旨・ねらい】**

われわれは、日常臨床のなかで患者の「気持ちがわかる」などと表現することがあるであろう。では、そのとき、われわれは何をとらえて「わかる」としているのか。そもそも「こころ」と「気持ち」とをどう切り分けているのか。このような命題に直面すると、哲学的検討としてより難しく捉えられてしまうかもしれないが、これは、日々われわれが行っている心理療法や精神療法そのものであって、もっとも身近なこころの動きである。そして、この「了解」概念を扱っている究極の分野のひとつは、司法精神医学の中核である「精神鑑定」であると考えている。

そこで、本シンポジウムでは、近年、社会不安を煽っている自殺や犯罪などの社会病理を題材に、いくつかの架空の精神鑑定事例をあげながら「人のこころ」と了解について議論してみたい。精神鑑定にまったくなじみのない会員にとっても、その面接手法、診断を導く記述精神病理学の考え方は明日からの臨床力の向上にも多いに寄与するものと思われる。

座長 河野 稔明 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所  
 地域精神保健・法制度研究部  
 安藤 久美子 東京科学大学

**S1-1 子殺しを唆した幻聴の由来は精神病かトラウマか - 鑑定事例から -**

茨木 丈博 東京科学大学保健管理センター

**S1-2 介護殺人に至った「機序」の検証(第2報) - 精神科病棟を「姥捨て山」と同一視したうつ病者の精神鑑定 -**

赤崎 安昭 鹿児島大学医学部保健学科・同大学院保健学研究科

**S1-3 再考 - 郷愁反応**

安藤 久美子 東京科学大学

**S1-4 刑事精神鑑定例にみる復讐の精神病理**

小島 秀吾 国際医療福祉大学大学院

**当事者&多職種で奏でる統合失調症のパーソナルリカバリー**

オーガナイザー 小口 芳世 聖マリアンナ医科大学神経精神科学教室  
根本 隆洋 東邦大学医学部精神神経医学講座・社会実装精神医学講座

**【企画趣旨・ねらい】**

本シンポジウムは、第44回日本社会精神医学会大会テーマである「社会と奏でる精神医学」を具体的に実践する場として企画されました。統合失調症の支援は、単なる「病気の治療」から、「当事者の望む人生(リカバリー)の実現」へと焦点が移行しています。この実現のためには、従来の医療モデルを超え、当事者の主体性を尊重し、多職種が対等な立場で連携し、当事者の人生という楽曲を共に奏でることが不可欠です。本企画では、当事者、精神保健福祉士、看護師、医師という多職種が、それぞれの専門性と視点を持ち寄り、パーソナルリカバリーを支える「連携の実際」と「倫理的課題」を提示・共有することで、今後の社会精神医学の実践に資することを目的とします。

座長 小口 芳世 聖マリアンナ医科大学神経精神科学教室  
根本 隆洋 東邦大学医学部精神神経医学講座・社会実装精神医学講座

**S2-1 綺麗事、美辞麗句を排した真の回復とはなにか**

堀合 研二郎 一般社団法人精神障害当事者会ポルケ

**S2-2 救命科から精神科に転科し市区町村同意での医療保護入院者の退院支援  
—家族との再会、生活保護からの脱却—**

盛田 玲美 聖マリアンナ医科大学病院精神療法ストレスケアセンター

**S2-3 看護師の日常生活に寄り添うヘルスケアをリカバリーに接続する多職種・  
多機関連携支援の実践**

竹澤 翔 石川県立こころの病院

**S2-4 当事者&多職種と奏でるリカバリーの旋律 —非自発的投薬を乗り越え、  
社会参画を支える薬物療法のパラダイムシフト—**

小口 芳世 聖マリアンナ医科大学神経精神科学教室

シンポジウム 3 3月5日(木) 15:05~17:05 第3会場【大会議室 201】

## ジェンダーレス時代における性加害問題を考える

オーガナイザー 森下 順子 自治医科大学・精神医学講座  
須田 史朗 自治医科大学・精神医学講座

## 【企画趣旨・ねらい】

2023年3月、イギリスのBBC放送局が、全世界に向けて Predator: The Secret Scandal of J-Pop (J-Popの捕食者 秘められたスキャンダル)を公開した。その内容は、故ジャニー喜多川氏が数十年にわたり、複数の未成年者の男子に性的虐待を行ってきたことを明るみにしたというものである。2025年11月27日現在、SMILE-UP. (ジャニーズ事務所)のホームページでは、被害補償受付窓口の申告者数:1,033名、補償内容の合意者数:567名であることを掲載している。これまでも、ジャニー喜多川氏の性加害認定の判決として、2003年7月の高裁判決、2004年2月の最高裁の決定があったが、メディアは、積極的に報道しなかった。このようにジャニーズ性加害問題は、性犯罪だけにとどまらず、ジャニーズ事務所とメディアとの関係、ジャニーズ事務所と企業との関係など、ジャニーズ事務所という組織の体制(放送局や企業に圧力をかける)も大きな話題となり、社会に影響を与えた。

この性加害問題は、精神的影響の問題、男性被害者というマイノリティやジェンダー問題、人権侵害問題、権力関係の問題などのように、あらゆる側面からみることができる。こうした問題を議論することは、今まで性的虐待の被害者として、声を上げづらかった男性たちの支援につながる可能性がある。

本シンポジウムでは、精神医学、哲学、心理学、社会学を研究する演者を招聘し、加害者側の行動パターン、心理操作の段階モデル、スティグマ、男性規範意識による被害の過小評価、また根源的な人間の性欲と理性についての問いにアプローチする。

座長 西依 康 自治医科大学・精神医学講座  
稲川 優多 自治医科大学・精神医学講座  
指定発言 須田 史朗 自治医科大学・精神医学講座

## S3-1 同性間の未成年者への性加害問題 -ジェンダーの視点からの検討-

森下 順子 自治医科大学・精神医学講座

## S3-2 少年のジェンダー／性別違和からみる男性性規範と性加害問題の「語れなさ」

稲川 優多 自治医科大学・精神医学講座

## S3-3 なぜ誰もがジャニーズ性加害問題を見過ごしてきたのか

小林 陵 横浜市立大学附属病院精神科心理室

## S3-4 アイデンティティの多重的な混乱 ——現象学、系譜学、バトラー

小野 純一 自治医科大学医学部総合教育部門

## ストレスケア病棟の臨床から学ぶ精神保健福祉士(PSW)の力

オーガナイザー 松下 満彦 医療法人社団新光会不知火病院  
徳永 雄一郎 医療法人社団新光会不知火病院

### 【企画趣旨・ねらい】

ストレスケア病棟研究会は2000年4月に、不知火病院、松原病院、戸田病院、こころホスピタル草津の4病院が発起し、医療従事者の研鑽を目的に立ち上げた研究会である。その後の所属施設は増え、毎年のように研究会を開催し、近年では2022年(不知火病院)、2023年(阪南病院)、2024年(しのだの森ホスピタル)、2025年(あさかホスピタル)が幹事として主催し、その病院のコーディネートにより、症例を通して、患者の理解を深めている。この研究会以外にも、年に複数回行われる部会があり、「精神保健福祉士の部会」、「看護師の部会」、「作業療法士の部会」が集まり、多職種の合同部会として、お互いに刺激を高めてきた。

ところで、国家資格を有する精神保健福祉士(PSW)の役割は、障害の特性やその人の特徴を、周囲の環境問題をふまえ、解決に向けて情報提供や助言、さらには精神障害者を支援する制度や施設などの社会資源を駆使し、通院のみならず、入院退院など、あらゆる場面で必要とされる職種である。

今回は、ストレスケア病棟研究会において行われる事例検討に習い、所属病院を代表して、松原病院、阪南病院、有馬病院、養南病院、不知火病院から、臨床を通して得られた経験や知識を共有し、「ストレスケア病棟の臨床から学ぶ」をテーマに、精神保健福祉士(PSW)の役割と力について再考し、会場とともに社会精神医学の理解を深めたいと考え企画した。

座長 松下 満彦 医療法人社団新光会不知火病院  
市来 真彦 東京医科大学学生・職員健康サポートセンター

#### S4-1 ストレスケア病棟における精神保健福祉士の役割

田中 任代 公益財団法人松原病院社会復帰支援部地域生活支援課

#### S4-2 ストレスケア病棟におけるハイリスク患者の要因と課題について —ソーシャルワークの役割について考察する—

梶内 千恵 阪南病院医療福祉相談室

#### S4-3 精神保健福祉士による退院支援の多層性と射程

平郡 美緒 医療法人内海慈仁会有馬病院医療福祉相談室

#### S4-4 ストレスケア病棟の役割について精神保健福祉士の視点での考察

澤田 真名美 社会医療法人緑峰会養南病院相談課

#### S4-5 うつ病治療における精神保健福祉士の姿勢と実践 —対応困難事例の検討—

佐藤 圭 医療法人社団新光会不知火病院

## 精神疾患における尊厳死・安楽死を考える

オーガナイザー 須田 史朗 自治医科大学・精神医学講座  
小林 聡幸 自治医科大学・精神医学講座

### 【企画趣旨・ねらい】

EU 諸国や北米の一部地域では尊厳死・安楽死が法制化されており、オランダ、ベルギー、カナダなどでは精神疾患を理由とした安楽死が厳格な条件下で認められるに至っている。実際に、オランダでは自閉スペクトラム症やボーダーラインパーソナリティ症の患者の安楽死が認められ大きな話題となった。一方、わが国においては尊厳死・安楽死に関する包括的法律は未だ制定されていない。回復の見込みがない末期状態に対する延命治療の中止、すなわち尊厳死については一定の社会的コンセンサスが得られていると考えられるが、そこには法的根拠がなく、患者の苦痛からの解放を目指した薬物などによる積極的安楽死は殺人罪等に該当し、明確に違法とされるのが現状である。しかし、尊厳死・安楽死の世界的動向から、この問題を議論することは、いずれわが国においても避けて通れない。

精神疾患においては、意思能力や事理弁識能力が症状によって変動することがあり、希死念慮についても疾患の症状である場合は治療可能性を有していることがある。また、疾患の影響による社会的孤立や生活困窮が患者の絶望感を増強し、死への羨望を高めることがあるかもしれない。これらの問題をあらゆる治療や社会的介入を駆使して解決を目指すことが精神科医の使命であるが、それでもなお患者が死を望んだ場合に、本人の意思はどこまで尊重されるべきであろうか。また、我々精神科医が取るべき態度はどのようなものであるべきだろうか。

本シンポジウムでは、精神医学、心理学、社会医学、倫理学領域の演者を招聘し、精神疾患に対する尊厳死・安楽死の世界的動向の報告、結果的に尊厳死に近い形で死を迎えた摂食症の事例報告を通じ、精神疾患患者の尊厳死・安楽死についての議論を深めることを目的としたい。

座長 須田 史朗 自治医科大学・精神医学講座  
小林 聡幸 自治医科大学・精神医学講座

### S5-1 精神疾患における尊厳死・安楽死の世界的動向

太刀川 弘和 筑波大学医学医療系災害・地域精神医学／茨城県立こころの医療センター

### S5-2 結果的に尊厳死に近い形となった摂食症の事例報告

岡田 剛史 自治医科大学・精神医学講座

### S5-3 精神疾患と死ぬ権利

有馬 斉 横浜市立大学大学院都市社会文化研究科

### S5-4 そもそも「精神疾患」とは何なのか -実存的観点からの考察-

小笠原 将之 関西福祉科学大学心理科学部

## 子どもの自殺に至るメンタルヘルスと社会での支援

オーガナイザー 榎屋 二郎 東京医科大学精神医学分野  
八木 淳子 岩手医科大学医学部神経精神科学講座

### 【企画趣旨・ねらい】

2020年より顕在化した新型コロナウイルス感染症問題は長期に渡って社会や我々の生活に大きな影響を残し「コロナ禍」という新語と共に今もその影響が続いている。日本においては、さまざまな自殺予防対策の結果、10年以上に渡って減少していた自殺者数が増加に転じ、現在も高止まりしている現状である。2024年の自殺者数は20320人であり、これは平均すると日本では毎日毎日、55名以上の人々が自殺で亡くなっているということになる。コロナ禍当初における自殺の増加で特に顕著であったのは女性と児童思春期のこども達の自殺の増加であった。こども達に関して言えば、2020年の小・中・高の児童生徒の自殺者数は499名で過去最高の自殺者数を記録したが、2024年の小中高生の自殺者数は529人と過去最高を更新し続けている。これは平均すると日本では毎日毎日、約1.5人のこども達が自殺で亡くなっているということになる。こういったこども達の自殺の多さからユニセフは2020年に出したレポートの中で日本のこども達の精神的幸福度を38か国中37位にランキングした。こどもの自殺を巡る近年の傾向としては、こどもの自殺や自傷の手段として市販薬のオーバードーズが用いられることが顕著に増加していることやこどもの自殺や自傷にSNSやネットが果たす役割が大きくなっていること、逆境体験の影響が着目されるようになってきていること、なども挙げられよう。こどもの自殺を防ぐ支援を展開することは社会的急務と言える。本セッションでは最近の様々な視点からのこども達の自殺や自傷を巡る現状や分析、そしてそこから考える支援や予防を各分野で支援を続ける登壇者から報告し、参加者と共に考えていきたい。

座長 榎屋 二郎 東京医科大学精神医学分野  
八木 淳子 岩手医科大学医学部神経精神科学講座／岩手医科大学附属病院児童精神科

#### S6-1 ト라우マと発達の見点で考えるこどもの自殺

八木 淳子 岩手医科大学医学部神経精神科学講座／岩手医科大学附属病院児童精神科

#### S6-2 “いじめ”の視点から考える、こどもの自殺と心理社会的支援

増田 史 滋賀医科大学精神医学講座

#### S6-3 SNSやオンラインゲームとこどもたちのメンタルヘルス

関 正樹 大湫病院

#### S6-4 SNS・AI時代を生きる「トー横キッズ」を自殺から守るために

榎屋 二郎 東京医科大学精神医学分野

**集団病理を考える——陰謀論・マインドコントロール・感応精神病**

オーガナイザー 小林 聡幸 自治医科大学・精神医学講座

**【企画趣旨・ねらい】**

集団ヒステリーや集団自殺など集団の精神病理的現象についての関心は古くからあるものだが、稀な事態ではあるし、臨床家が日常的に関わるような問題でもない。しかし関心を寄せなくていいものとは思えない。また、個人の病理が政治にどう影響するか検証しようという精神政治学(psychopolitics)なるジャンルがある一方で、そうした発言を抑制しようというゴールドウォーター・ルールができたが、2016年の米大統領選を機に、このルールの妥当性を疑う議論も噴出した。社会や集団に対して精神医学が発言することの可否については常に意見が揺れている。しかしながら、近年の情報技術の発達、情報の伝達を迅速にし、またそれまでつながりようのなかった人々を結びつけることを可能にした。それはひとまずはよいことではあるのだが、その反面、これまで考えられなかったような形で集団病理の発生と伝播を助長する可能性を拓いたともいえる。もしかするとこれからさらに深刻化するかもしれない集団病理について考察し、発言するのは精神医学のひとつの使命でありうるのではないかと考え、このシンポジウムを企画する。まずは、集団的な精神病理現象について、医学史の見地から、とりわけ20世紀初頭のフランスにおける感応精神病(contagion mentale)を巡る議論を紹介し、現代に通ずる視点を導き出したい。次に、いささか論じ尽くされた感なきにしもあらずのマインドコントロールの議論を再論したい。さらに、コロナ禍という状況下で顕在化してきた感のある陰謀論について論ずる予定である。

座長 小島 秀吾 国際医療福祉大学大学院  
清水 加奈子 日本うつ病センター・六番町メンタルクリニック

**S7-1 20世紀初頭フランスにおける感応精神病**

西依 康 自治医科大学・精神医学講座

**S7-2 オウム真理教とその幹部の個人病理**

小林 聡幸 自治医科大学・精神医学講座

**S7-3 コロナ期に散見された心因反応についての一考察  
——精神鑑定事例を通して集団病理を考える——**

辻 恵介 武蔵野大学人間科学部

**S7-4 陰謀論の精神病理**

深尾 憲二郎 帝塚山学院大学

## 意思決定支援・共同意思決定のプロセスを問う：多領域・多職種の視点から

オーガナイザー 立森 久照 慶應義塾大学医学部医療政策・管理学教室  
勝又 陽太郎 東京都立大学人文社会学部人間社会学科心理学教室

### 【企画趣旨・ねらい】

本シンポジウムは、医療・福祉・心理・倫理といった多様な領域が交わる場において、意思決定支援と共同意思決定のプロセスを包括的に検証し、実践的課題と可能性を探求することを目的としています。近年、患者や利用者の自己決定権が尊重される一方で、認知機能の低下や家族・チーム間の価値観の相違により意思決定が困難になるケースが増え、単一専門職だけでは対処しきれない複合的課題への対応が求められています。本シンポジウムはまず、意思決定支援と共同意思決定の概念整理や国内外の最新動向を提示し、多領域連携の理論的枠組みを俯瞰します。次に、精神疾患患者における意思決定能力評価と支援方法、リスク・ベネフィットのバランス、チーム内での情報共有プロセスについて具体例を交えて議論します。さらに、手術や集中治療を受ける人の Advance Care Planning や、本人に代わって治療の意思決定を行う代理意思決定における支援の実践例を通じて、長期的視点からの支援と家族・介護スタッフとの共同意思決定を検証します。また、認知機能測定ツールや倫理的判断基準の最新研究成果を紹介し、臨床現場での適用可能性と課題を明らかにします。本シンポジウムのねらいは、多職種が共有すべき意思決定支援の基本原則を明確化するとともに、各領域の実践事例から得られる具体的手法やツールを相互に学び合い、横断的な知見を創出することです。また、参加者間で共同意思決定のプロセスモデルを構築し、今後の臨床・福祉現場への導入可能性を検討します。最終的には、患者本人とその支援ネットワークが対等に情報を共有し、価値観を尊重した意思決定が実現できる持続可能なシステムの構築へ向けた第一歩となることを目指しています。

座長 山口 創生 国立精神・神経医療研究センター  
島田 岳 医療法人友愛会千曲荘病院

### S8-1 意思決定支援・共同意思決定のプロセスを問う

青木 裕見 聖路加国際大学大学院看護学研究科

### S8-2 精神科診療所における困難事例の意思決定支援と共同意思決定の限界 —境界知能や被虐待体験を有する事例を通して—

安間 尚徳 医療法人社団順風会上尾の森診療所

### S8-3 集中治療を受ける人への Advanced Care Planning 支援

山本 加奈子 聖路加国際大学大学院看護学研究科

### S8-4 意思決定支援に活かす意思決定能力評価

松長 麻美 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所  
地域精神保健・法制度研究部